

舞鶴から希望の京都をつくろう！ ～地域力の創造と市民の幸せを目指す～

京都府議会議員

池田まさよし通信

発行：池田まさよし事務所

【第5号】

〒624-0854 舞鶴市字円満寺133番地3 TEL:0773-77-1722 FAX:0773-77-1723 <http://www.ikedakal.net>

京都府の状況や私の議員活動などを紹介してまいりますので、今後ともよろしくお申し込み申し上げます。



すすきの穂も白くなり、日増しに深まりゆく秋を感じています。皆様、いかがお過ごしでしょうか。日頃から、池田正義に対しまして温かいご支援とご指導を賜り、心から御礼申し上げます。こうして活動できますのも皆様のお力添えのおかげさまであり、重ねて厚くお礼申し上げます。さて、八月の府南部地域を中心とした記録的な豪雨は、京都府に甚大な被害をもたらしました。被災されました府民の皆様には衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、お亡くなりになりました方々のご冥福を、心からお祈り申し上げます。私は、五月議会で警察常任委員会に所属し通学路の安全や交通事故防止対策などに取り組み、また、少子・高齢社会対策特別委員会の副委員長として子育て支援や少子化対策、高齢者の支援対策等について、さまざまな課題に取り組んでおります。これからも、



京都府議会議員

池田正義



世界ろう者卓球選手権大会

三冠達成 上田萌選手(舞鶴市出身)

平成二十四年度 京都府スポーツ賞・優秀賞を受賞(八月十七日府庁にて)

上田萌選手は、二〇二二年世界ろう者卓球選手権大会において、団体・シングル・ダブルスに優勝され見事に三冠を達成されました。とても明るい萌選手、終始笑顔で山田知事と歓談をされた、来夏ハンガリーのブダペストで行われるデフリンピックに向けた決意を語られました。上田選手は、五歳から卓球を始められ、日立化成卓球部に所属しておられます。



テレビ警察常任委員会に出演

京都テレビ

平成24年11月18日(日) 午前10時~11時放映

(再放送) 11月19日(月) 午前9時30分~10時30分

テーマ 交通事故防止の推進 ~安心・安全な交通社会をめざして~

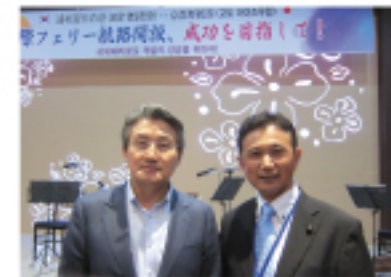


交通事故防止における警察の役割とともに、地域や社会全体で取り組む安心・安全な交通社会について議論します。

2012年 4月~9月 池田まさよし 活動報告



4月17日 韓国ポハン市へ訪問(ポハン港)



4月17日 ポハン朴市長とともに



5月18日 天神川放水路竣工式に出席



6月9日 宮津にて TANTANロングライドで山田知事と語る



自民党 安倍総裁と熱い握手をかわす



6月15日 ユアテックススタジアム山台を視察



6月23日 白杉農業集落排水処理施設竣工式



9月3日 第31田井丸竣工式に出席



9月3日 京都舞鶴港にて多目的クレーンを視察



9月26日 日タイ親善交流に参加



9月29日 舞鶴航空基地11周年記念式典に出席

池田まさよし事務所 ご案内

西事務所(舞鶴市字円満寺133番地3)

池田まさよし事務所

TEL(0773)77-1722 FAX(0773)77-1723
 オープン時間 9:00~17:00 m.ikedakal@kyotofugikal.jp

西舞鶴駅より徒歩2分です。牛井古野家さんの隣です。尚、駐車場がありませんので、西駅市営駐車場をご利用下さい。

いつでもお気軽にお立ち寄り下さい。市民の皆様からのご意見・ご質問も受け付けております。

九月定例会 一般質問に立つ

京都舞鶴港国際フェリー・トラライアル事業について

【質問】 昨年十一月に、京都舞鶴港が三つの分野で日本海側拠点港に選定されたが、現在、「国際フェリー・国際RORO」については、航路が無く、将来にわたり拠点港として発展していくためには、航路開設に向けた取組が大きな鍵を握ると考える。本府では、大韓民国浦項市と国際フェリー就航に向けた、「京都舞鶴港国際フェリー・トラライアル事業」に取り組んだが、その目的と成果、並びに今後どのように展開していくのか、知事の考えを伺いたい。



【答え】 京都舞鶴港国際フェリー・トラライアル事業についてですが、本格的な

環日本海時代を迎え、成長著しいアジアのポテンシャルが高まっている中で、こうした経済の活性化や地域振興をしっかりとお互いにウィンウィンの関係を作っていくことが大変重要である。

他方、京都舞鶴港は、コンテナ取扱量が年間約六千TEU、定期航路は中国・韓国共に週一便です。新ふ頭が完成し、近畿で唯一の日本海側重要港湾として役割を担う態勢は整いつつあるが、まだ役割は担えていないというのが現状です。

その中で、まだ就航実績がない国際フェリーの航路開拓について、これから一番大きな課題です。

今回のフェリー・トラライアルは、韓国の浦項港と両港ともに背後地での荷物出荷の大きな可能性があり、後背地には世界遺産等の観光資源を有することから、かなり相乗効果が期待できる交流ということ、実施されたものです。今回、北部の各市町長、京都の経済界や連合婦人会など約四百人に乗船いただきました。

最大の成果は、経済界をはじめとして、京都舞鶴港は知っていても、実際利用していない人たちに、京都舞鶴港



がどういう意味を持った港であるのかを今回のトラライアルで実感をしていただきました。これは非常に大きな財産になります。

また、物流面では、関係の事業者に航路や港湾のインフラなど、直接現地を見てもらったことで、立地に関心を示す企業が具体的に出てくるなど、荷主開拓の基盤ができたと思います。

さらに、人の交流については、日韓のモニターツアー参加者を中心に観光してもらいましたけれども、両国参加者の八割の方から非常に高い評価を得、観光集客のポテンシャルの高さも確認できましたし、その中で具体的に入国管理や税関の手続きでも、大変スムーズにできたことはこれから土台を作る上で大きな収穫になりました。

原子力防災について

【質問】 この一年間の原子力防災に関する検討状況とその対応はどうか。特に、広域避難については対象区域や避難先の選定、避難方法・手段、要配慮者対策について、府が率先して調整すべき！

【答え】 昨年五月に京都府独自に策定した原子力発電所防災対策暫定計画を、国の検討状況を踏まえて、本年三月に改定し、UPZを概ね三十キロメートルに拡大するなど、国に先行して見直してきました。

関係市町においても、府の暫定計画に基づく防災計画及び避難計画の検討が進められる中で、放射性物質の拡散予測が必要なことから、三月に全国で初めてSPEDDI(スピーディ)の広域予測をしました。

また、南海トラフも念頭に、府内全市町村に対して、庁舎移転時の必要面積、受入時の可能面積などの基礎調査を実施し、国においても、六月に、災害対策基本法の改正が行われ、広域避難に関する自治体間の調整規定が創設されました。

こうしたことを踏まえて、七月には防災会議地域防災の見直し部会に広域避難等検討ワーキングを設置

また、府北部の各市町長による観光PRで京都舞鶴港を中心とした北部自治体の動きを進められたことも、今までにないことです。

こうした成果を踏まえ、九月にはこれまでのトラライアル事業のための日韓合同プロジェクトチームを充実強化することで合意し、すでに共同研究が始まっているところです。

また、浦項市からも、今度は浦項市からクルーズをという提案も出ており、地域間交流についても非常に大きな期待が持てます。



RORO・・・RORO船とはトレーラーなどの車両を収納する専用甲板を持つ貨物船

主要地方道小倉西舞鶴線について

【質問】 古く、狭く、歩道の無い危険な白鳥トンネルがある小倉西舞鶴線は東西の市街地を最短距離で結ぶルートであり、活力ある街づくりを進める上で必要な道路である。この白鳥トンネルと倉谷地区の四車線化について、考えは！

【答え】 府道小倉西舞鶴線は、舞鶴市の東西の市街地を最短距離で結び、国道二十七号のバイパス機能を有する幹線道路であり、これまで行水地区での道路拡幅や森地区での歩道整備などを進めてきました。

最も交通量の多い倉谷地区について、舞鶴市民病院の建設などのまちづくりに合わせて、国道二十七号西舞鶴道路との交差点における渋滞対策を図るため、伊佐津川から東の約三百二十メートルの区間を、現在の幅十八メートルから都市計画の三十メートルへ拡げる事業に平成二十年度から取り組んでいます。これまでに測量と設計を進めており、今後、地元住民の方々のご協力を得て、来年度には用地買収に入ります。

白鳥トンネルについては、東西の市道がトンネル前後で府道に合流することと交通が集中し、トンネル部がボトルネックとなり、交通渋滞が発生して



白鳥トンネル

います。

また、歩道の無いトンネルを自転車の高校生が通学するなど安全性の問題や、車道幅員が狭いため大型車がすれ違う際に、壁に車が接触するなどの問題があります。

これらの問題に対処するためには、白鳥トンネルを改築する方策やトンネルをバイパス化する方策が考えられますが、現在の交通量を通行させながら改築することの難しさや、バイパス化には多額の費用を要することの問題点があります。これらの課題について検討し、白鳥トンネル区間の問題に対処できるように進めていきます。

し、審議いただき、UPZの範囲については、今後国が原発毎に実施するMACCS2(マックスツー)のシミュレーション結果を待ちますが、当面、三十キロメートル圏内市町を対象に、南方面と西方面への二つの避難パターンを設定すべきとの意見をいただきました。

また、避難方法・手段についても、八月に、このワーキングの専門家に加えて、道路管理者やバス・鉄道事業者、警察本部、自衛隊などで構成する広域避難交通対策連絡会議を設置して検討を進めています。要配慮者の広域避難については、これまでからも、舞鶴市や対象地域の福祉施設及び医療施設との意見交換を重ね、広域的な施設相互の受入調整について、関係団体と協議を進めており、ワーキングや連絡会議においても議論を進めています。

また、広域的な避難経路や避難方法などを検証するための避難シミュレーションの実施を予定しており、今議会に予算をお願いしています。今後とも、これらを踏まえて、市町村と十分連携しながら、広域避難計画の策定に早急に取り組みしていきたいと考えています。

※UPZ・・・国策原子力発電所が事故時に周辺地域の住民を保護する対象を定める範囲で、原発から30km圏内
 ※SPEDDI・・・舞鶴市広域避難対策ワーキングシステム。震災から放射能被害が広がった際、そのおそれがあるという関係機関に迅速に連絡し、放射能被害の拡大を抑制するための協議や避難への影響を把握するための地域ネットワークを基にした予測システムのこと